

【科目名】 音声障害学		【担当教員】 倉智雅子
【授業区分】 専門分野(発声発語・嚥下障害学)	【授業コード】 5-30-1145-0-1	(メールアドレス)kurachi@nur05.onmicrosoft.com
【開講時期】 ST2 年・後期	【選択必修】 必修	(オフィスアワー)授業開講日 研究室にて対応
【単位数】 1 単位	【コマ数】 8 コマ	
<p>【注意事項】</p> <p>(受講者に関わる情報・履修条件)</p> <p>言語聴覚学専攻学生対象。入門レベルの発声発語器官の解剖学と生理学、ならびに音響学を理解していること(言語聴覚障害学総論、言語聴覚障害診断学、音声医学を履修済みのこと)。</p> <p>(受講のルールに関わる情報・予備知識)</p> <p>講義日にはテキストを持参する。また、教科書や参考書の該当箇所を自主的に読み進めておく。</p>		
<p>【講義概要】</p> <p>(目的) 言葉のリハビリテーションに従事する治療者を目指す学生にとって、言葉の生成に関与する中枢神経系・末梢神経系およびそれに関連する各器官の全般的な医学的知識は不可欠であり、この基礎を学ぶことを目的とする。</p> <p>(方法) 脳内で言葉を生み出す中枢神経系内での制御機構、そしてその脳内で構築された言葉を音声として表出する器官および機構(肺と呼吸機能・声帯・声道・鼻咽腔等)について、さらに音声(母音と子音)についてその特徴、その音響学的理論について、統合された講義を通して学ぶ。</p>		
<p>【一般教育目標(GIO)】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・音声(発声)の仕組みを十分に理解し、音声障害だけでなく、摂食・嚥下障害や運動障害性構音障害に対しても応用できる知識を身に付ける。 ・気管切開カニューレや無喉頭音声時の仕組みを理解する。 ・音声障害の発声に対する適切な聴覚的判定と音声治療法を理解する。 <p>【行動目標(SBO)】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・音声を呼吸、発声、共鳴の要素に分けて考えることができる。 ・発声の仕組みを画像としてイメージできる。 ・病的音声を聴覚的に評価できる。 ・音声(発声)障害の種類と原因を列挙することができる。 ・音声(発声)障害に対する適切な治療法が選択できる。 ・各種音声治療法を実演できる 		
<p>【教科書・リザーブドブック】</p> <p>廣瀬 肇・『STのための音声障害診療マニュアル』インテルナ出版, 2008年. ¥3,500(税別)</p>		
<p>【参考書】</p> <p>① 荻安 誠・城本修編著『言語聴覚療法シリーズ 14 改訂 音声障害』建帛社, 2012年. ¥3,100(税別)</p>		

平成 26～28 年度入学者用

② 日本音声言語医学会編・『新編 声の検査法』医歯薬出版, 2009 年. ¥6,800(税別)

③ 藤田郁代・『標準言語聴覚障害学 発声発語障害学』第 2 版 医学書院, 2015 年. ¥5,000(税別)

【評価に関わる情報】

(評価の基準・方法)

成績評価基準は本学学則規定の GPA 制度に従う。

定期試験は実施しない。レポート70%、演習やグループ作業への参加態度30%の割合で総合的に評価を行い、100点満点で60点以上を合格とする。

【達成度評価】		試験	小テ スト	レポ ート	成 果 発 表	実 技	ポ ー ト フ ォ リ オ	そ の 他	合 計
総合評価割合				70				30	100 点
評 価 指 標	取り込む力・知識			35				10	
	思考・推論・創造の力			35				10	
	コラボレーションとリーダーシップ								
	発表力								
	学修に取り組む姿勢							10	

【授業日程と内容】

回数	講義内容	授業の運営 方法	学修課題(予習・復習)	時 間 (分)
1	オリエンテーション 発声器官の解剖・生理について 声の特徴について	講義	予習：テキスト p.1~7 の 他、1・2年時に学んだ声 に関する授業の内容を復 習しておく 復習：テキストと授業中の ノートの確認	20 分 15 分
2	声の異常について 喉頭疾患と分類について	講義	予習：テキスト p.8~12 復習：テキストと授業中の ノートの確認	20 分 15 分
3	声の評価、音声障害の診療について 言語聴覚士の診療・役割について 耳鼻科医の診療・役割について	講義	予習：テキスト p.13~32 復習：テキストと授業中の ノートの確認	30 分 15 分
4	音声障害の治療について 医学的対応と音声治療について 気管切開・人工呼吸器について	講義	予習：第 2 回講義の復習 (喉頭疾患について) 復習：ノートの確認	30 分 15 分
5	各種音声治療の紹介と演習① 問診による情報収集と声の衛生指導について グループ作業	講義 演習	予習：なし 復習：テキストと授業中の ノートの確認	15 分
6	各種音声治療の紹介と演習② 対症療法的治療法について	講義 演習	予習：テキスト (実践編 第3章と4章の	30 分

平成 26～28 年度入学者用

	共鳴強調訓練について		p.130-136) 復習:テキストと授業中の ノートの確認	15分
7	各種音声治療の演習③ 発声機能拡張訓練について アクセント法について LSVT について	講義 演習	予習:テキスト (実践編 第4章と5章) 復習:テキストと授業中の ノートの確認	30分 15分
8	喉頭摘出の音声リハビリテーション 喉頭の摘出と無喉頭音声について 無喉頭音声の訓練法について	講義 演習	予習:テキスト (実践編 第7章) 復習:テキストと授業中 のノートの確認	30分 15分

※授業日・教室は随時学生ポータルサイトにて配信します。

※ここに示す学修課題の時間は、必要とする授業外の学修時間(授業時間の3倍)に含むべき時間を示します。